高温・干ばつ害対策

１　早期水稲

（１）登熟期間は早期落水を避け、可能であれば掛け流しの水管理を行い、地温を下げて稲の消耗を抑える。

（２）水不足が懸念される場合は、水系ごとの計画的なかん水に取り組むなど、節水栽培に努める。

２　普通期水稲

（１）幼穂形成期～穂揃い期までは、間断かん水や湛水に努め、登熟期間は早期落水を避け、可能であればかけ流しの水管理を行い、地温を下げて稲の消耗を抑える。

（２）水不足が懸念される場合は、穂揃い期までは浅水管理を行い、水系ごとの計画的なかん水に取り組むなど、節水栽培に努める。

３　さとうきび

（１）かん水可能なほ場では、かん水を行う。

（２）新植夏植えは作溝後直ちに植え付け、覆土を厚めに行う。

４　さつまいも

（１）かん水可能なほ場では、かん水を行う。

５　野　菜

（１）野菜全般

ア　乾燥するとハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等の病害虫が発生しやすくなるため、発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

イ　露地野菜におけるは種・定植は、土壌が乾燥した状態ではなく、雨後の基礎水が確保されてから実施する。

ウ　高温・乾燥等により石灰欠乏が発生しやすい品目（ピーマン、にがうり、いちご、そらまめなど）は定期的に石灰資材の葉面散布に努める。

エ　ハウス栽培では、西日を抑制するために、西側肩部分に２ｍの遮光資材を設置し、植物の消耗を抑制するよう心がける。

（２）果菜類（なす、オクラ、ピーマン、きゅうり、にがうり）

ア　不良果等の摘果を行い、草勢維持に努める。

イ　マルチをしていないほ場では、敷草、敷わら等を厚めに敷き、乾燥を防ぐとともに、かん水は朝夕の地温の低い時に行う。

（３）葉菜類（ほうれんそう、チンゲンサイ、根深ねぎ）

ア　ハウス栽培では、遮光資材等を天井ビニルの上から張り、サイド等を開放するなどして、ハウス内の温度を下げる。または、遮熱資材等を塗布しハウス内温度を下げる。

イ　は種後は、切りわら等で被覆し、土壌の乾燥と地温の上昇を防ぐ。

ウ　かん水は、朝夕の地温の低い時に行う。

（４）根菜類（さといも、ごぼう、にんじん、だいこん）

ア　かん水施設のあるところでは、５日間隔で30㎜のかん水を行う。

イ　は種作業を行う場合は、は種後の鎮圧、かん水を十分に行う。

６　花　き

（１）敷きわら、敷草等により、土壌の乾燥を防止する。

（２）かん水できるほ場では、朝夕の地温の低い時にかん水する。

（３）露地栽培では、寒冷紗で被覆し、地温を下げる。

（４）ハウス栽培では、遮光資材等を天井ビニルの上から張り、サイド等を開放するなどして、ハウス内の温度を下げる。

（５）乾燥するとハダニ類、アブラムシ類、スリップス類等の発生が多くなりやすいため、発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

（６）収穫は気温の低い早朝に行い、低温貯蔵庫等に入れる。

（７）水源を確保するとともに貯水施設を設置し、かん水できる状態にしておく。

７　果　樹

（１）土壌表面からの蒸発を防止するため、敷きわら等を行う。

（２）土壌の乾燥を防ぐため、かん水を行う。また、かん水の効果を高めるために、下記のとおり工夫する。

ア　かん水は午前中に行う。

イ　樹冠下に集中的にかん水する。

ウ　土壌かん注や点滴かん水を行う。

（３）恒久的な対策として、水源を確保し、かん水ができる状態にしておくことが望ましい。

（４）カンキツでは、日焼けが発生しやすい（直射日光が当たる）位置の果実に遮光資材等を被せる。

（５）施設カンキツでは、可能な限り、遮光資材を被覆して直射日光を遮る。

（６）ハダニ等害虫の発生に注意し、適期防除に努める。

８　茶

（１）かん水を行う。

幼木園…５日おきに20～25㎜

成木園…７日おきに30㎜

（２）かん水を行う場合は、畝間ではなく株元に水が届くようにする。

（３）深耕は行わない。

９　畜　産

（１）家畜

ア　畜舎周辺の壁や障害物を除き、風通しを良くする。

イ　屋根散水や送風機等で畜舎の換気を促進したり、風、細霧（水滴）等を家

畜に直接当て、体温を下げる。

ウ　毎日きれいな水を与える。可能であれば冷水を与える。

エ　畜舎周辺を涼しくするため、遮光ネット等を張り、日陰を多くする。

オ　夜間放牧や涼しい場所に家畜を引き出す。

カ　青草給与を控え、消化の良いサイレージ、乾草を給与する。

キ　飼料は、涼しい時間に与える。

（２）飼料作物

ア　かん水ができず、草勢の回復が困難と見込まれる場合には、早期に収穫を行い、品質低下の防止に努める。

イ　今後播種する場合には、耐乾性の優れた草種、品種の選定に努める。

ウ　土壌条件を考慮しながら、土壌の保水性を向上させるために、牛ふん堆肥等の有機物を施用する。